

平成25年度 九州体育・保健体育ネットワーク研究会ファイナルラウンド報告

九州、北海道・東北、北信越（合同）体育・保健体育ネットワーク研究会「ファイナルラウンド」が、全国から120名の体育科・保健体育科教育に関わる小中高の学校関係、教育委員会関係、大学関係のそれぞれの立場の先生方の参加を得て、平成26年3月8日（土）に鹿児島大学教育学部 郡元キャンパスで開催されました。

今回は今年度最後の九州体育・保健体育ネットワーク研究会で、今回のファイナルラウンドのタイトルが「保健体育授業づくりシンポジウム 2014」とありますように、保健体育の充実に向けて全国の取り組み事例の紹介やポスターセッションでの授業づくり最前線の発表、そして今回も全国の保健体育の最先端で研究・実践している先生方をお招きしてのシンポジウムと魅力的な内容が盛り込まれた充実した研究会でした。

なお、開会に先がけて平成25年7月に亡くなられた日本体育大学大学院教授の高橋健夫先生のご冥福を祈り、参加者全員で黙祷を捧げました。その後に、鹿屋体育大学の佐藤 豊先生と鹿児島大学の武隈 晃先生からご挨拶をいただきました。



佐藤 豊先生



武隈 晃先生

【内容】

第1部 「全国・世界から学ぶ～学校体育の充実に向けて～」

1. 「授業づくりのヒント」

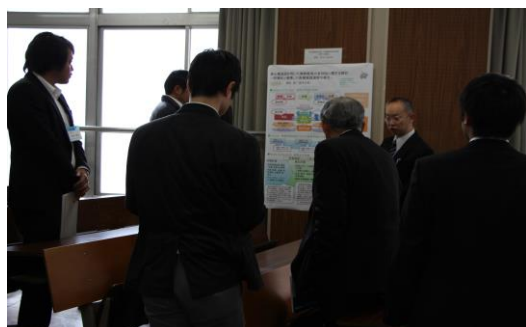
- 北海道・東北ネットワーク研究会実践報告
高橋修一（北海道・東北ネットワーク研究会）
- ドイツのスポーツ教育事情
廣瀬勝弘（鹿児島大学）
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査を分析してわかったこと
末永祐介（国立教育政策研究所）
- くまモン等を活用した『くまもとの元気づくり』の取組
緒方俊朗（熊本県教育庁）
- 長崎県部活動指導の充実 トレーナー派遣事業と部活動指導の手引き
松尾邦彦（長崎県教育庁）

「授業づくりのヒント」では、高橋先生から今年度実施された6回の北海道・東北ネットワーク研究会の活動報告について、廣瀬先生からはドイツ ハイデルベルグ大学スポーツ科学研究所の子どもの運動不足や体力・運動能力の低下等の課題解決の取組事例について、末永先生からは全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問紙調査における「運動・スポーツをする、しない、好き嫌い、体育の授業が楽しくなる理由」等の運動・スポーツに対する情意に関する分析について、緒方先生からは熊本県における「くまモン体操」を活用した3年計画の「くまもとの元気づくり」の実践報告について、松尾先生からは長崎県における運動部

活動外部指導者やトレーナー派遣事業の成果とその課題について報告がなされ、それぞれの発表には独自性があり、参加された先生方は自分の今後の立場で生かしていきたいという意識の高まりを感じさせる素晴らしい内容でした。

2. 授業づくり最前線「ポスターセッション」

- 生涯を見通したスポーツへのかかわり方を探求する生徒を育てる体育理論
内田ひろみ（福岡県体育研究所）
 - 主体的に運動に取り組むことのできる生徒を育てる保健体育科学習指導法の研究
吉野圭亮（筑紫野市立筑紫野中学校）
 - 打つ動作につなげる段ボールラケット
村中田 博（宮崎市立清武小学校）
 - 体育的学力を保障する小学校体育の授業づくり
佐藤政臣（菊池市立菊池小学校）
 - これならできる！「体づくり運動」の指導計画と授業実践
井出拓一・前田大吾（鹿児島市立伊敷台小学校）
 - 元気いきいき運動大好き妙小っ子大作戦
山川素生（日置市立妙円寺小学校）
 - 「運動好き」な生徒を育てる学習指導の創造
長井忠友（阿久根市立大川中学校）
 - ミニバスケットボール少年団における「学習の勢い」と「形成的評価」における研究
高橋 諒（鹿屋体育大学 体育学部 スポーツ総合課程4年）
 - エイジング教育の理念を取り入れた中学校の保健授業の検討
古田大輔（鹿屋体育大学 体育学部 スポーツ総合課程4年）
 - 運動部活動の体罰の防止策についての研究
熊山好生（鹿屋体育大学 体育学部 スポーツ総合課程4年）
 - 単元構造図、模擬授業、ビデオ分析の連続による体育教員養成のための授業づくり
佐藤 豊・梶 ちか子（鹿屋体育大学）
 - 体づくり運動タブレットを活用した授業実践
北本憲仁（山鹿市立菊鹿中学校）
 - 生活リズムチャレンジ週間
長谷川 智（新潟市立中野山小学校）
- 単元構造図を用いた教師教育の有効性に関する検討
—付属校と連携した教職実践演習の報告—
清水 将（岩手大学）



3. 「九州のスポーツ行政施策2013」

●体力アップ福岡モデル	物部倫明（福岡県体育研究所）
●体育専科教員の活用状況と体力向上	阿部尚史（大分県教育委員会）
●体力向上と行政の取り組み	永渕 武（佐賀県）
●広島県での体力向上の取り組み	清田美紀（広島県教育委員会）

福岡、大分、佐賀、広島の4つの県における「体力向上の行政としての取り組み」事例について、それぞれの県の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の分析結果に基づく「体力向上プラン」の具体を紹介していただきました。

・体力アップ福岡モデル（福岡県）…

教育課程内、外（学校行事や部活動など）の取組、生活習慣改善の取組、家庭や地域と連携を図る取組の四つの柱から実践プラン作成の紹介

・体育専科教員の活用状況と体力向上（大分県）…

小学校への体育専科教員の配置と「一校一実践の推進」による体力向上プランの紹介

・体力向上と行政の取り組み（佐賀県）…

行政が行う施策として、学校に対して「指導資料、参考資料の作成」「研修会の開催」「情報提供・意欲の喚起」「学校・保護者への喚起」とし、それぞれについての紹介

・広島県での体力向上の取り組み（広島県）…

体力向上＝「鍛える」から「やってみたくなる体力向上の取組」へシフトチェンジした「体力向上のための研修会の実施」や「広島かけっこキャラバン」などの取組の紹介

紹介していただいた4つの県の発表の体力向上の施策の根底には、体力テストの数値にとらわれずに、「体を動かすことの大切さや楽しさ」「のぞましい生活習慣の必要性」があるのではないかと感じられました。これは学習指導要領が求めていることでもあり、このように、行政の施策がしっかりとしたものであることが学校体育の充実につながるのではないかと確信しました。

第2部 「保健体育授業づくりシンポジウム」

「よい授業を考える」

パネリスト

石川 泰成氏	国立教育政策研究所
大友 智 氏	立命館大学スポーツ健康科学部
下野 六太氏	福岡県春日市立春日南中学校
コーディネーター	
佐藤 豊 氏	鹿屋体育大学スポーツ人文・応用社会科学系

毎年、このシンポジウムでは、全国の保健体育の最先端で研究・実践している先生方をシンポジストとしてお招きして有意義なディスカッションをしていただいています。今回も国立教育政策研究所の石川泰成氏、立命館大学スポーツ科学部の大友智氏、福岡県春日市立春日南中学校の下野六太氏の三人の先生による「よい授業を考える」をテーマにして

行政、研究、実践の立場からとても魅力的なお話をさせていただきました。

その内容ですが、まず、はじめにコーディネーターの鹿屋体育大学の佐藤豊先生から、シンポジウムの視点について過去の本会のシンポジストの先生方の発言を振り返りつつ、今回のシンポジストの提案を踏まえ、「よい体育の授業」の構築のためのさまざまな資料についての解説がありました。

国立教育政策研究所の石川泰成先生からは、「よい授業を考える～実践から学ぶ～」というテーマで、「よい授業」とは①指導のねらいや学習する内容が明確で具体的であること、②生徒の実態（学習経験や技能の程度等）にあった指導内容や学習課題を提示すること、③生徒たちの意思決定を保障した時間を確保すること、④指導と評価を一体化した授業の推進を、などを中心に体力向上の手立てなどに触れながらお話していただきました。

立命館大学スポーツ科学部の大友智先生からは、①みんなのスポーツ、②社会の期待に応える授業実践、③時代的・社会的要請と体育の授業づくりについて、参加者に6つの技能の内容について「4-4-4システム」のどの段階で指導すべきかについて考えてもらいながら、発達段階に応じた指導内容の設定や全ての子どもの学習成果を高める指導方法の確認・開発の必要性、これからの学校体育の指導のあり方について興味深いデータとエビデンスに基づいてお話していただきました。

福岡県春日市立春日南中学校の下野六太先生からは、テレビなどで紹介されました先生ご自身の「よい授業」を目指す際に工夫していることについて「ビフォーアフタービデオ」を紹介しながらお話していただきました。工夫している点としては、①毎時間の学習で「指導と評価の一体化」を実現、②「ビフォーアフタービデオ」の製作、③視聴覚機器の導入、④始業5分前から授業を開始する、⑤運動の特性を踏まえた単元構成の工夫の5点についてお話していただきました。

佐藤先生が3人の先生のそれぞれの立場からのお話とフロアからの質問などをうまくリードしながらまとめていただき、よい授業とは何かについてやよい授業づくりのヒントを得ることができた内容でした。特に、体育の授業は技能だけではなく、態度の面からも作っていく必要があることや児童・生徒の能力には差があるが、その能力は変わることを教える、体育は社会的な要請がありそれを伝えていく必要があるなど、改めて体育の授業を幅広く捉えて行わなければならないことを感じました。



(文責 東京都立新宿山吹高等学校 杉山 正明)